

全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年6月11日

予報期間：6月13日～7月12日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項



出現の可能性が最も大きい天候

北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:30:50	30:30:40	30:40:30	
	太平洋側		30:30:40	30:40:30	
東日本	日本海側	10:40:50	20:30:50	30:40:30	
	太平洋側		20:30:50	30:40:30	
西日本	日本海側	10:40:50	20:40:40	30:40:30	
	太平洋側		20:40:40	30:40:30	
沖縄・奄美		20:40:40	30:30:40	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:30:50	20:40:40	20:40:40
東日本	20:50:30	20:30:50	10:40:50
西日本	20:50:30	20:30:50	10:40:50
沖縄・奄美	30:50:20	30:50:20	20:30:50

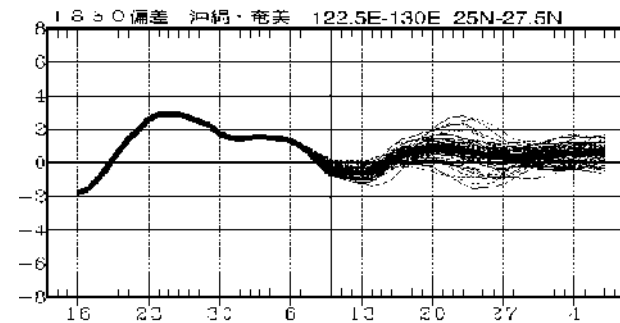
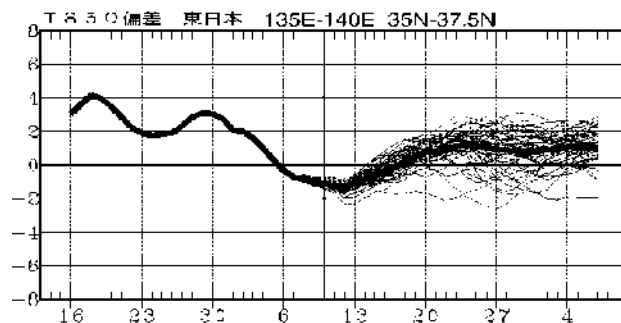
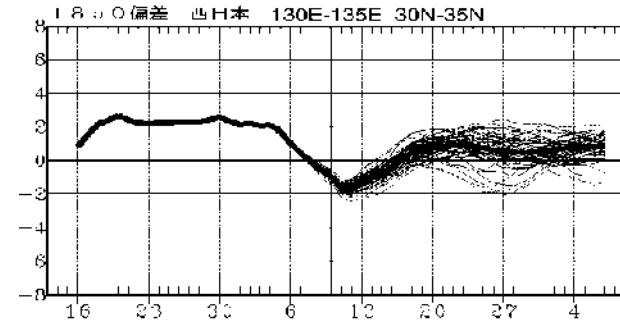
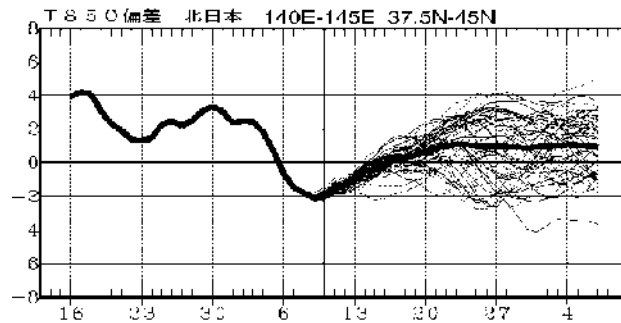
全般1か月予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は北・東・西日本で高く、沖縄・奄美では平年並か高いでしょう。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は、東日本で多く、西日本では平年並か多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(6/13~6/19)	2週目(6/20~6/26)	3~4週目(6/27~7/10)
想定される天候(気温)	北日本は高温だが、東・西日本と沖縄・奄美は平年並。	東・西日本は高温、北日本は高温傾向だが、沖縄・奄美は平年並。	東・西日本と沖縄・奄美では高温で、北日本では高温傾向。
根拠	北日本では千島近海付近の高気圧縁辺の暖かい空気が流れ込みやすい(P12,P13参照)。	東・西日本を中心に日本の東海上にある高気圧縁辺の暖かい空気が流れ込みやすい(P12,P13参照)。	偏西風が北偏して流れるため、暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。

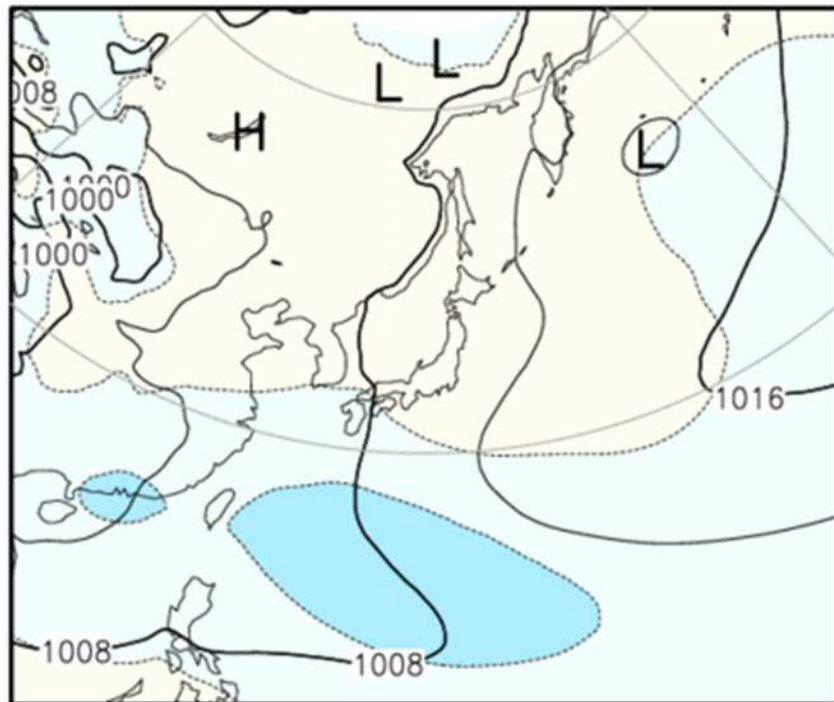
850hPa気温偏差時系列



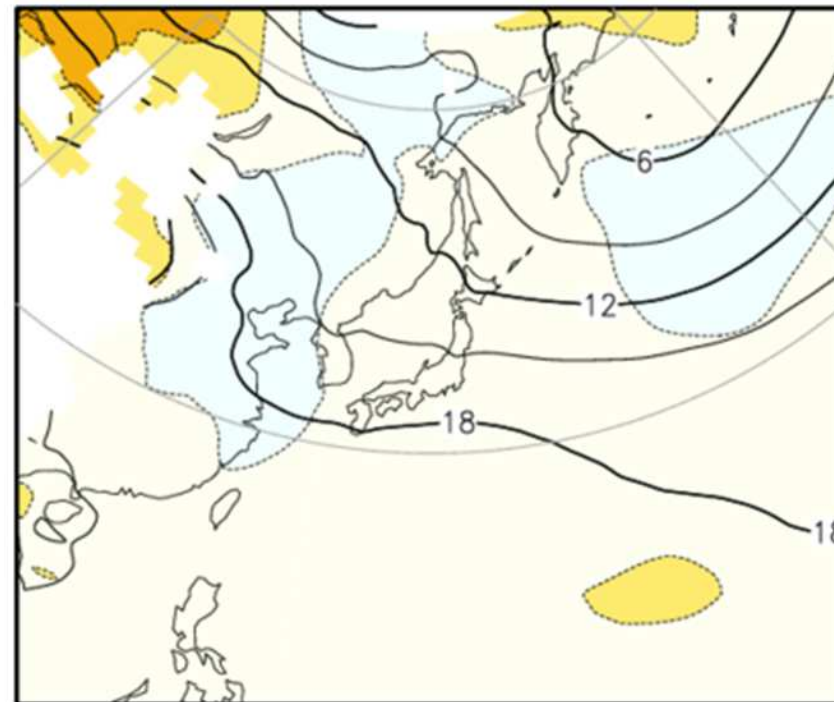
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(6/13~6/19)	2週目(6/20~6/26)	3~4週目(6/27~7/10)
想定される天候(天気)	全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	東・西日本太平洋側を中心に、前線や湿った空気の影響を受けやすく多雨傾向(P10-P13参照)。	全国的に平年と同様の天候だが、本州付近を中心に前線や高気圧縁辺の暖かく湿った空気が流れ込みやすいため多雨傾向(P10-P13参照)。	全国的に平年と同様の天候(P10-P13参照)。

海面気圧(1か月)



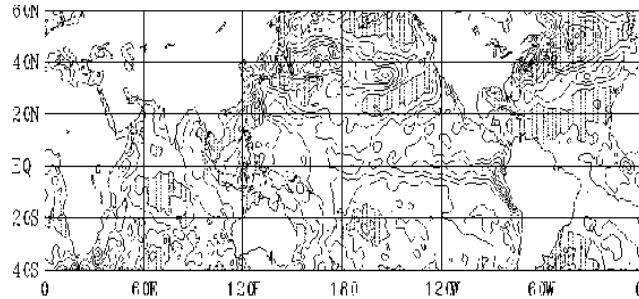
上空約1500mの気温(1か月)



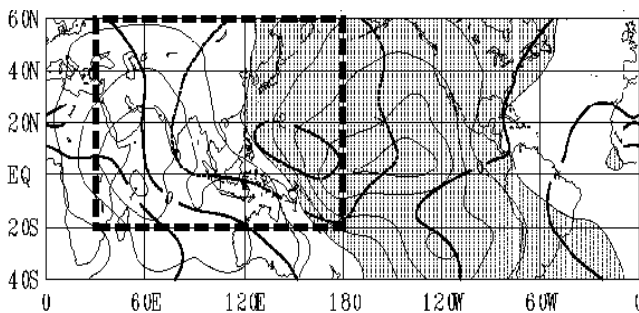
1か月平均の海面気圧(左図)では、華南から日本の南にかけて平年より低いですが、本州付近には気圧の谷が予測されており、本州付近を中心に前線や日本の東海上にある高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすいでしょう。
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近で平年より高く、全国的に暖かい空気が流れ込みやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

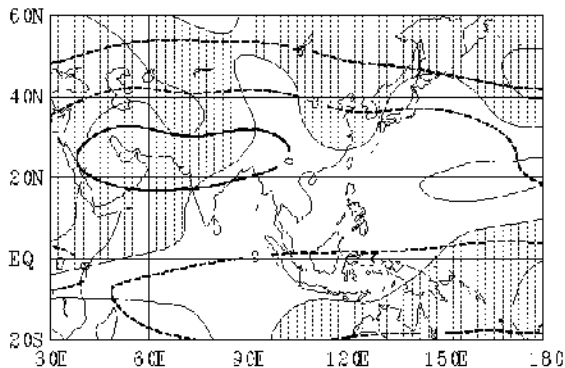
SST偏差



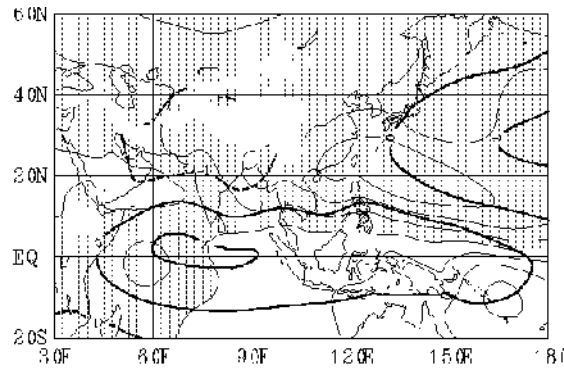
200hPa速度ポテンシャル



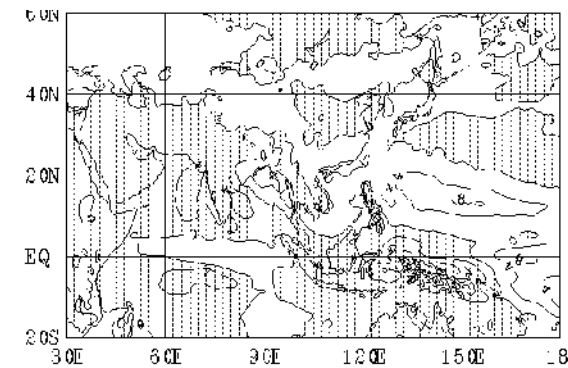
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



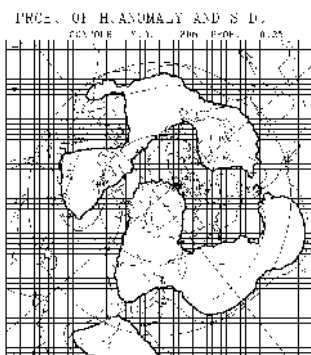
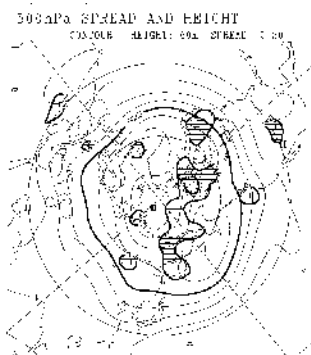
SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部を中心に広く正偏差。

200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に対応して、太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、南シナ海から日付変更線の西にかけて低気圧性循環偏差。

降水量は、南シナ海から日付変更線付近にかけて多雨偏差。日本付近では本州付近を中心に多雨偏差。

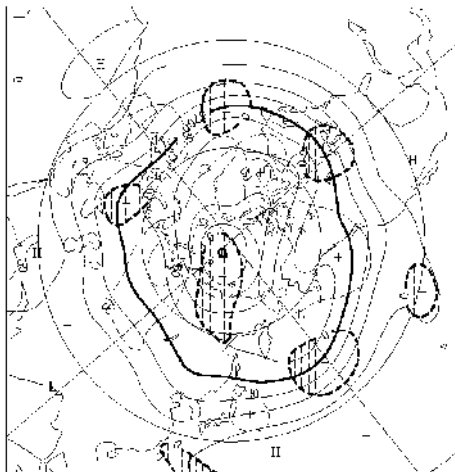


500hPa高度は、日本付近では北・東・西日本を中心に正偏差、沖縄付近は負偏差。

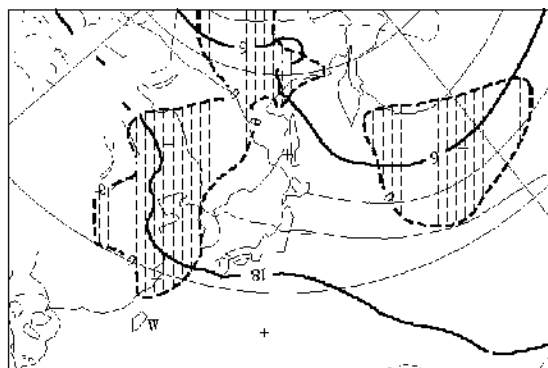
850hPa気温は、500hPa高度偏差に対応して、全国的に正偏差。

海面気圧は、華南から日本の南で負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受ける可能性がある。一方、大陸から日本の東にかけて正偏差だが、本州付近を中心に気圧の谷となり、前線や日本の東海上の高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。ただし、500hPa高度では東シナ海からオホーツク海付近にスプレッドがあり、不確実性が大きいことに留意。

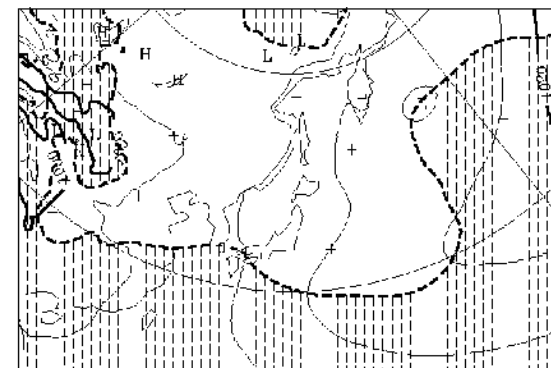
500hPa高度



850hPa気温

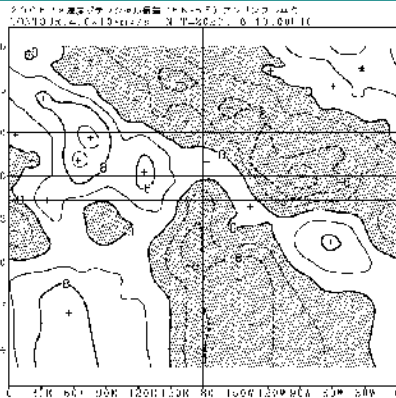


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



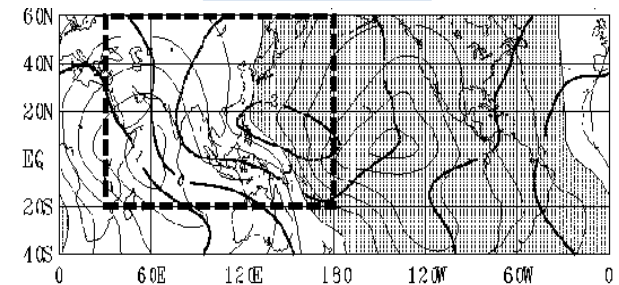
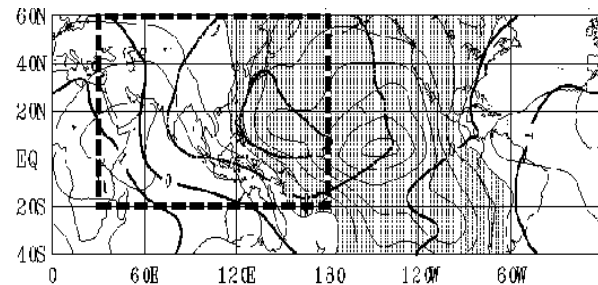
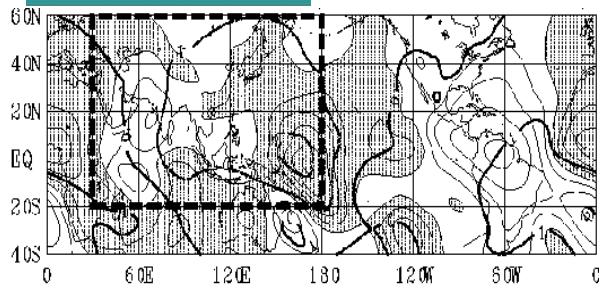
200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋中部で上層発散偏差、インド洋西部を中心にインドネシア付近にかけて上層収束偏差。降水量は、1週目は、ベンガル湾北部と南シナ海から東日本にかけて多雨偏差。2週目は、フィリピンの東と本州付近を中心に多雨偏差。3~4週目は、ベンガル湾から日付変更線の西で多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

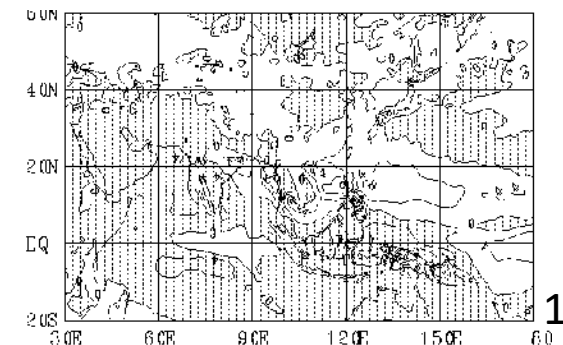
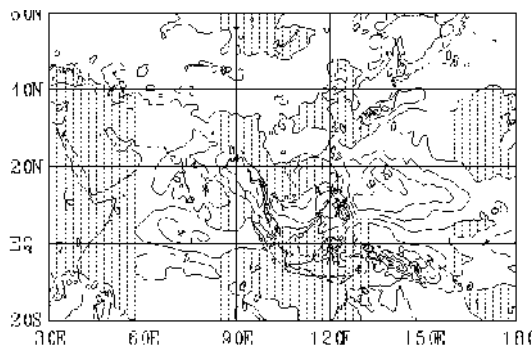
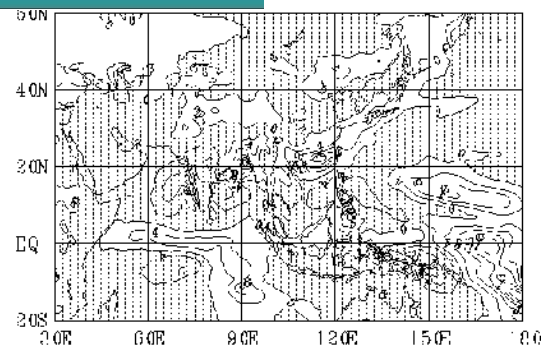
1週目

2週目

3~4週目



降水量偏差



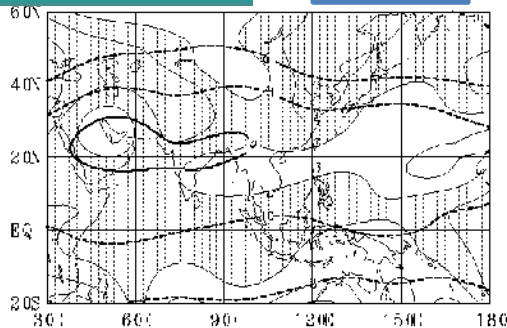
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目は、黄海付近で低気圧性循環偏差、日本の南東で高気圧性循環偏差。2週目は、熱帯の対流活動に対応して、日本の東で高気圧性循環偏差。3~4週目は、フィリピンの東を中心に高気圧性循環偏差。

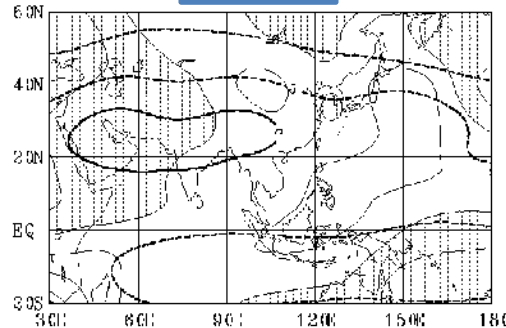
850hPa流線関数は、熱帯域の対流活動に対応して、1週目は、フィリピンの東で低気圧性循環偏差、千島近海付近で高気圧性循環偏差。2週目は、フィリピンの東から日本の南にかけて低気圧性循環偏差。3~4週目は、沖縄の南を中心に低気圧性循環偏差。

200hPa流線関数

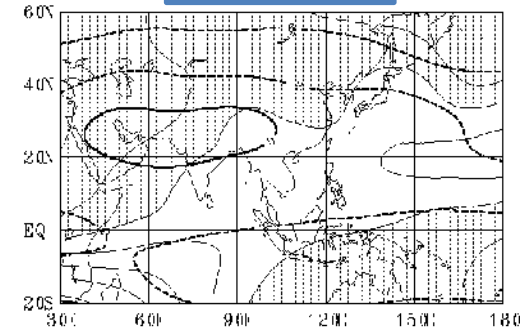
1週目



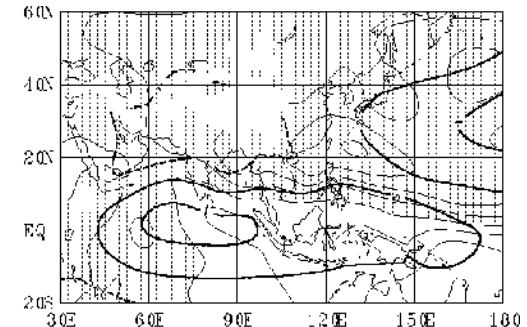
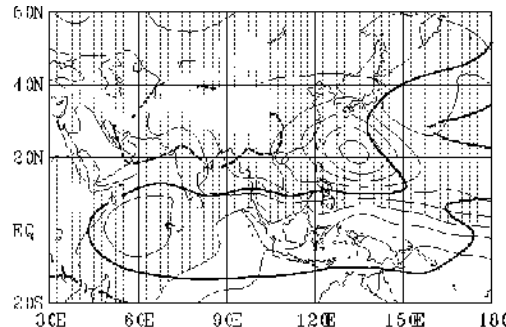
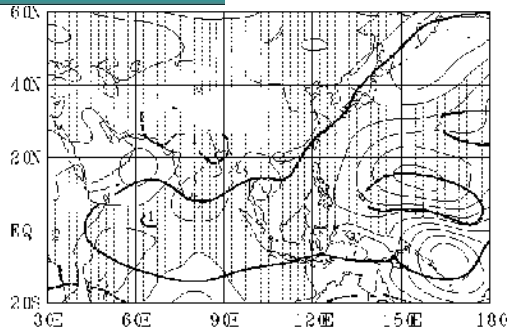
2週目



3~4週目



850hPa流線関数



予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

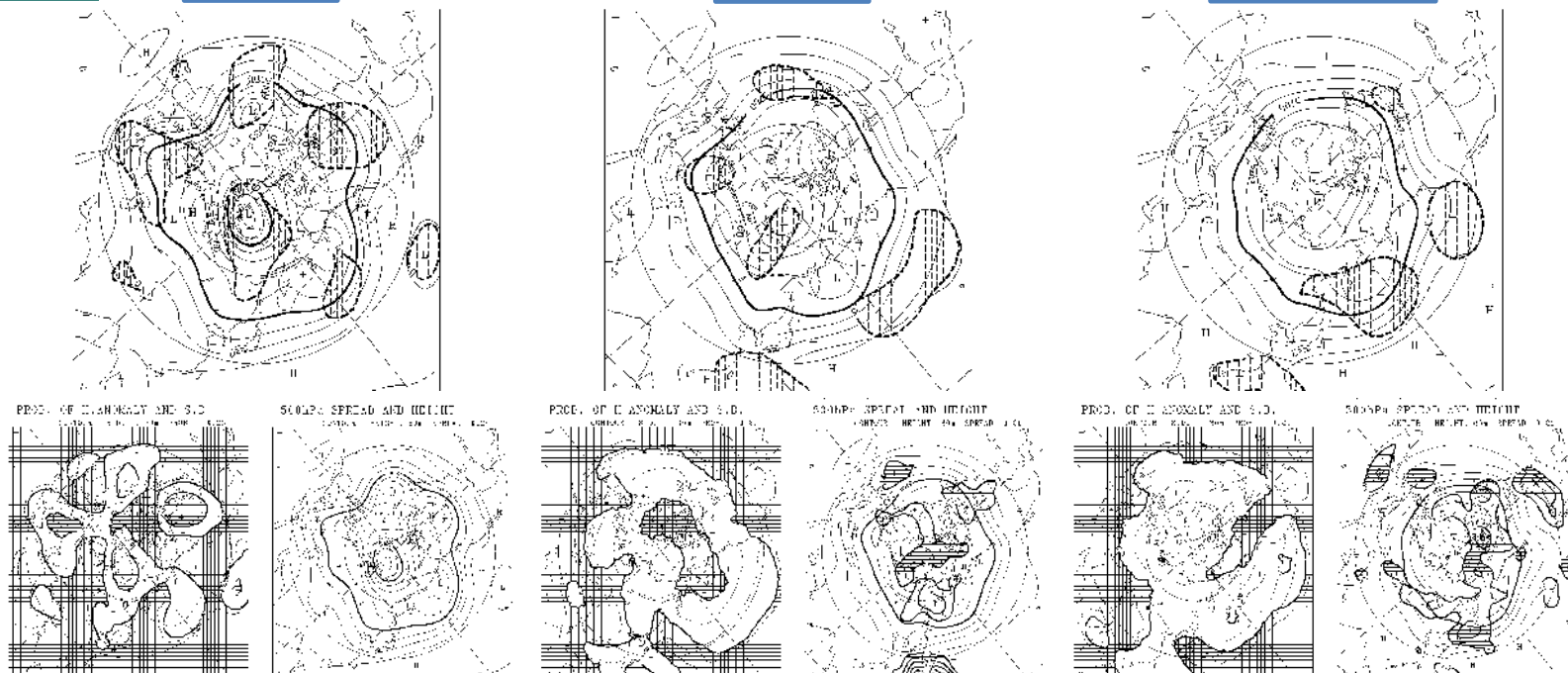
500hPa高度では、1週目は日本の東を中心に正偏差。2週目は、北・東・西日本を中心に正偏差となる一方、東シナ海付近を中心に負偏差となり、西谷傾向。3～4週目も、北・東・西日本では正偏差、東シナ海付近では負偏差。なお、2週目以降は東シベリア付近と日本の南でスプレッドが大きく、予測の不確実性が大きいことに留意。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は北海道付近で正偏差だが、東・西日本と沖縄・奄美では平年からの隔たりは小さい。2週目以降は、日本付近は広く正偏差。

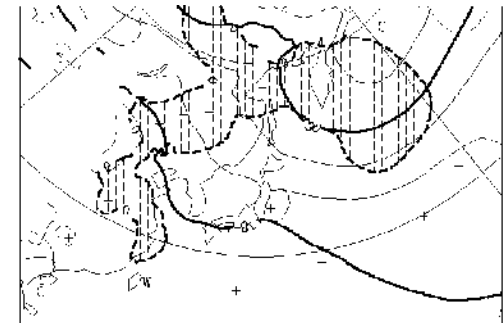
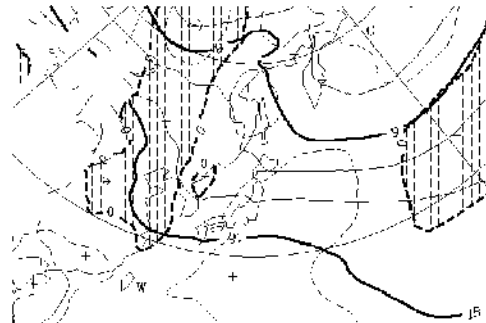
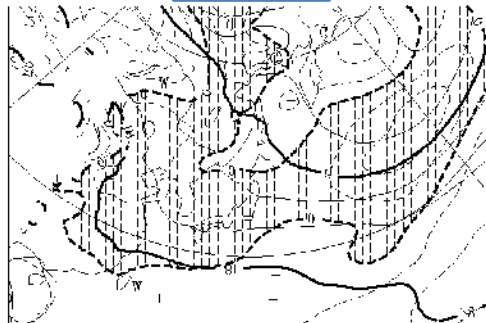
海面気圧は、1週目は日本の東で高気圧が強く、前線は本州南岸付近に予測されており、東・西日本太平洋側を中心に、前線や湿った空気の影響を受けやすい。2週目は、前線は本州付近に北上し、本州付近を中心に前線や高気圧縁辺の暖かく湿った空気を受けやすい。また、オホーツク海から千島近海に高気圧が予想される。3~4週目は、日本付近の偏差は小さいものの、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受ける可能性がある。

1週目

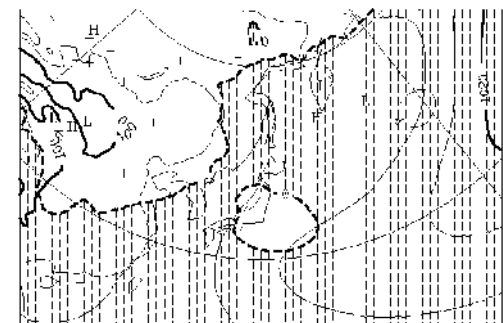
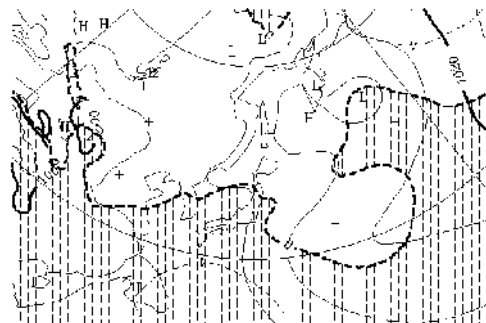
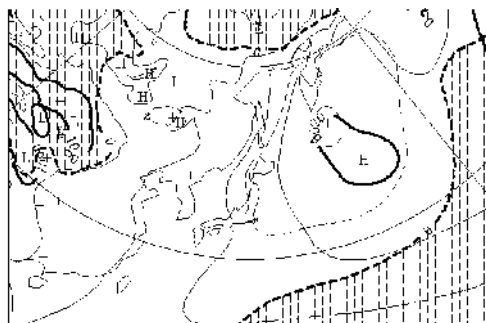
2週目

3~4週目

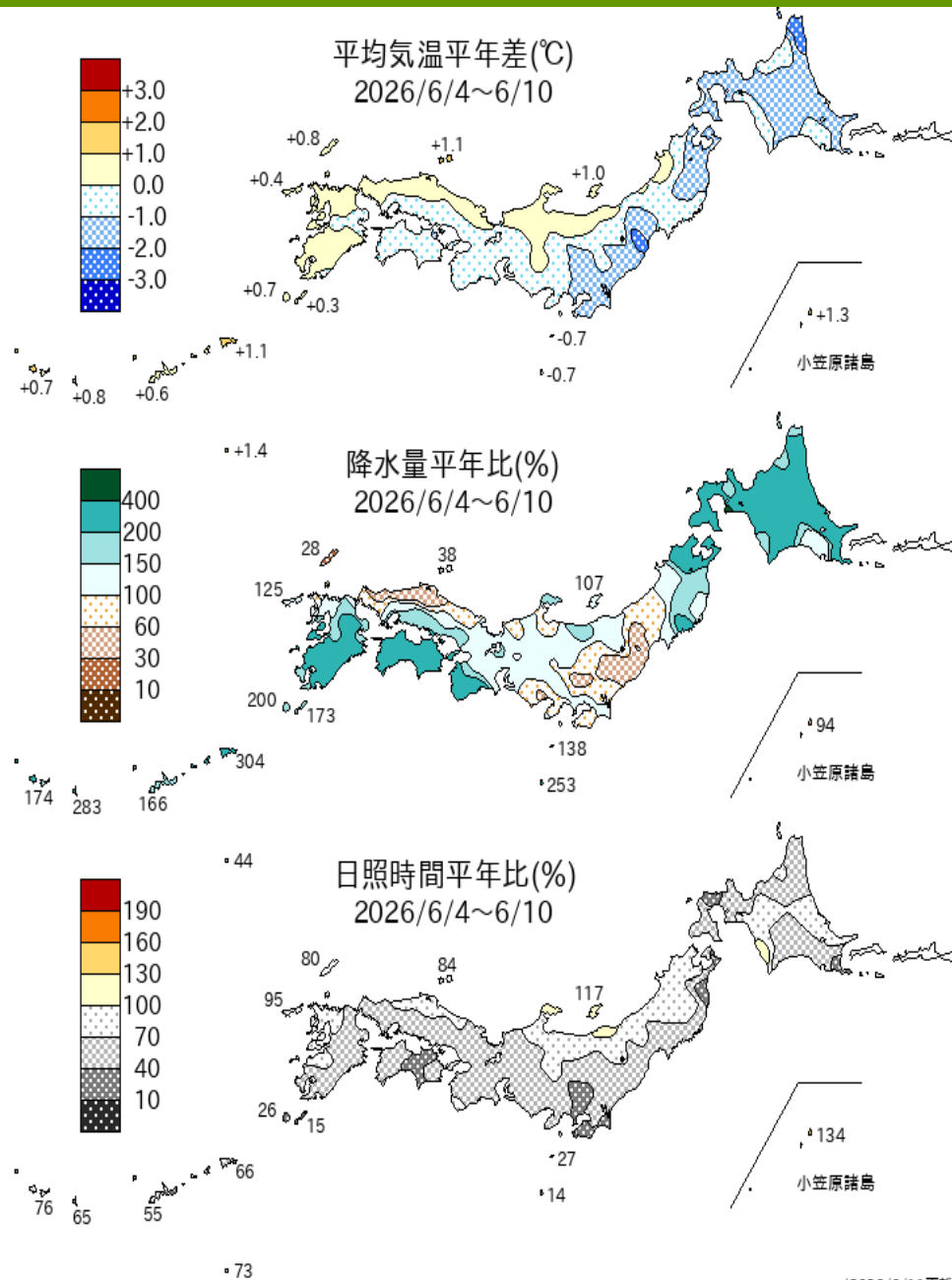
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(6月4日~6月10日)は、北日本では天気は数日の周期で変わりましたが、低気圧や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。東・西日本と沖縄・奄美では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。このため、降水量は、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすかった北日本、西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に平年を大きく上回りました。また、日照時間は全国的に平年を下回りました。気温は、暖かい空気に覆われやすかった東・西日本日本海側と沖縄・奄美で平年を上回りました。一方、オホーツク海高気圧などの影響で冷涼な空気が流れ込んだ北日本と東日本太平洋側を中心に平年を下回りました。